

## サル痘患者の発生について

令和5年3月17日、県内の医療機関から管轄保健所にサル痘の疑いのある患者が報告されました。当該患者の検体を県衛生研究所で検査を実施したところ、サル痘の陽性が判明しました。

なお、報道機関各位におかれましては、患者様やご家族などが特定されないよう、個人情報保護にご配慮ください。医療機関への取材や直接のお問い合わせはお控えください。

### 【患者の概要】

年 代：40代

性 別：男性

居住自治体：茨城県

症 状：発熱、発疹等

海外渡航歴：なし

患者の状況：状態は安定している

### － 県民の皆様へ －

- サル痘は、サル痘ウイルスによる感染症で、アフリカ大陸の流行地域（アフリカ大陸西部から中央部）で主に発生が確認されていましたが、2022年5月以降海外渡航歴のないサル痘患者が欧米等を中心に世界各国で確認されています。
- 主に感染した人や動物の皮膚の病変・体液・血液に触れた場合（性的接触を含む）、患者と近くで対面し、長時間の飛沫にさらされた場合、患者が使用した寝具等に触れた場合等により感染します。なお、現時点では、日常生活の中で空気感染を起こした事例は確認されていません。
- サル痘の潜伏期間は6～13日（最大5～21日）とされており、潜伏期間の後、発熱、頭痛、リンパ節腫脹、筋肉痛などの症状が0～5日続き、発熱1～3日後に発疹が出現、発症から2～4週間で治癒するとされています。
- 過剰に心配することなく、発熱、発疹等、体調に異常がある場合には身近な医療機関に相談するとともに、手指消毒等の基本的な感染対策を行ってください。
- 海外からの帰国者は、体調に異常がある場合は、到着した空港等の検疫ブースで検疫官に申し出てください。帰国後に症状が認められた場合は、医療機関を受診し、海外への渡航歴を告げてください。